

## 平成22年度実施 地域ICT利活用広域連携事業 成果報告書

実施団体名 石垣市、竹富町

代表団体名 石垣市

事業名称 石垣市区子育て支援ICT基盤整備事業

## 1 事業実施概要

離島の地理的制約等を緩和するため、パソコンや遠隔相談専用端末を通じて、相談者と相談員とが互いの表情を見つつ、資料等を両者の画面で同時に参照しながら、相談を行うことが可能なICT環境を整備するとともに

- ・ 離島、僻地を含む住民
- ・ 関係する役場
- ・ 市内6カ所の小学校

の間を接続し、住民、役場、学校等間のコミュニケーションを促進する。

あわせて、公的施設にデジタルサイネージを設置し、育児・子育て中の親や、子どもに向けて、適宜、情報を配信することにより、情報格差を是正し、誰もが必要な知識を得て、必要な支援を受けられるような子育て環境を整備する。

## 2 目標の進捗状況

## (1) 目標の進捗率

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
デジタルサイネージの認知度	対象住民の50%による認知	施設利用者のすべて	○	サンプル・アンケートの実施等
遠隔相談の実施の満足度	満足度60%	80%	○	導入教育時のアンケートの実施により計測

## (2) 進捗率の理由（達成状況が△又は×の場合はその理由）

### 3 事業による成果

#### (1) 事業による成果（アウトプット指標）

項目	成果指数	備考 (成果指数の説明等)	調査時期
参加者施設数(デジタルサイネージ)	6施設	デジタルサイネージを石垣市・竹富町の6施設に設置し、稼働開始	平成23年3月
デジタルサイネージ情報配信数(コンテンツ数、更新回数など)	一般番組3 健康・疾病予防番組:22 子育て支援番組:27	配信コンテンツ数	平成23年3月
一人当たりの利用頻度(遠隔相談)	週1回程度	平成23年3月末時点でのサンプリングによる利用者アンケート	平成23年3月

#### (2) 事業による社会的効果等（アウトカム指標）

項目	事業成果	調査内容	算出方法	調査時期
主観的安心度向上率(実感)【単独指標】	67.7%	デジタルサイネージコンテンツの閲覧による安心度の向上率	デジタルサイネージ視聴者へのアンケート	平成23年3月
産後うつ、育児うつ患者数及び関連事案発生数	2件	健康福祉センターへの相談件数及び石垣市の統計結果の集計	平成23年2月における、産後うつ、育児うつに関する相談件数を健康福祉センターへヒアリング	平成23年2月

### 4 システム設計書

別添2のとおり。

## <システム運用結果>

### 1 システム運用で得られた成果

#### ■ 遠隔相談システムの利用による子育て・育児支援と離島・僻地向けの行政サービスの充実化

離島の地理的制約等を緩和するため、インターネットを利用し、パソコンや遠隔相談専用端末により、相談者と相談員が相手の表情を見ながら、必要な資料等を両者が同時に参照しつつ、さまざまな相談を必要な時に行える ICT 環境を整備した。

#### ▶ 小学校間、公民館と学校間のコミュニケーション

石垣市内の 6 カ所の小学校

- ・大浜小学校
- ・明石小学校
- ・伊野田小学校
- ・野底小学校
- ・平久保小学校

にノート型の遠隔相談端末を設置し、学校間等の連絡・相談に利用したり、公民館

- ・川平公民館
- ・伊原間公民館

の相談端末から児童、親等が学校へ相談したりすることで、時間や場所に関わらず対話ができる環境を整備し、児童、親、教師のコミュニケーションを円滑にする ICT 基盤を整えた。



#### ▶ 僻地の公民館、離島の役場の出張所間、離島民と役場のコミュニケーション

石垣市の北部の僻地の公民館

- ・川平公民館
- ・伊原間公民館

及び八重山諸島の離島の出張所

- ・西表島東部出張所
- ・西表島西部出張所
- ・波照間島出張所)
- ・石垣市役所
- ・竹富町役場

に遠隔相談端末を設置し、僻地の住民と石垣市役所、離島住民と竹富町役場において、コミュニケーションを円滑に図り、僻地や離島の行政サービスを拡大する基盤を整備した。

特に、離島の出張所間で遠隔会議が行えるようになったことで、離島の職員が島を離れずに済むようになるとともに、行政コスト削減も可能となった。また、荒天等により離島間の定期便が運休となる場合でも、役場職員間の会議や島民による役場への相談等が実施可能となった。例えば、これまでは月例会議のために離島一人ずつしかいない保健師が泊まりがけで石垣島に集まっていたが、このシステムの導入により、移動が不要となるなど、離島の島民の安心感も向上した。

### ■職員・保健師と離島の保健師のコミュニケーション



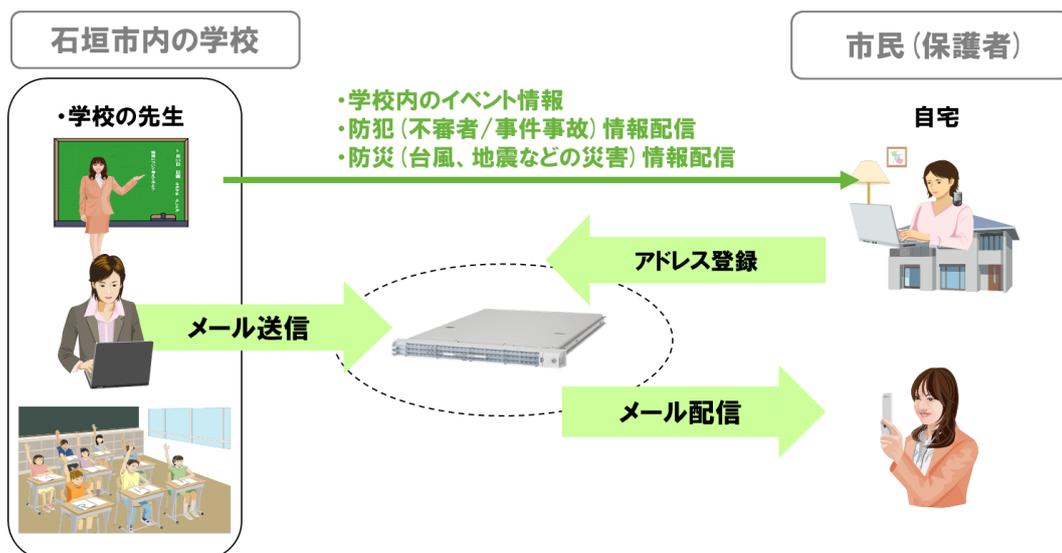
### ■地域住民と職員のコミュニケーション



#### ▶ 大浜小学校における一斉メール配信機能による父兄と教師のコミュニケーション

遠隔相談システムを導入した大浜小学校においては、父兄向けの一斉メール配信システムの導入へ強い要望があったため、これに応える形でシステムに機能を付加した。

一人親や共働きが多い石垣島においては、特に父兄と児童のコミュニケーションが不足しがちであり、これに起因する児童を介した教師と父兄とのコミュニケーション不足とあわせた課題を解決する一助となった。



## ■ デジタルサイネージによる子育て・育児支援と健康啓発、疾病予防、及び行政情報配信

- ・ 石垣市役所本庁舎一階入口正面
- ・ 石垣市健康福祉センター一階入口
- ・ 石垣市健康福祉センター内フィットネスジム
- ・ 離島ターミナル
- ・ 竹富町役場正面奥
- ・ 県立八重山病院待合室

の6カ所の公的施設にデジタルサイネージを設置した。育児・子育て中の親や子どもに向けて、適宜、情報を配信することにより、情報格差を是正し、誰もが必要な知識を得て、必要な支援を受けられるよう子育て環境を整備した。同時に、健康啓発、疾病予防に関する一般的な情報配信を行うことにより、市民の健康啓発に活用するとともに、行政情報を配信することにより市民向けの効果的な情報媒体を新たに構築した。

デジタルサイネージのコンテンツとしては、配信番組本編で取り上げる団体、制作団体等の最新情報を速やかに反映できるようにした。また、ニュースソースの変更を弾力的に行えるようにするとともに、誰もが扱えるオーサリングツールを利用することにより、住民参加型のコンテンツ制作環境を整えた。住民自らが制作・出演するコンテンツが拡大することにより、デジタルサイネージの認知が向上するとともに、地域のコミュニケーションを活性化することが可能となった。

### ▶ 育児・子育てコンテンツの構築

育児・子育て中の親に対し、育児・子育てに関する様々な情報等を紹介するとともに親子の健康づくりに関するコンテンツを配信する。育児・子育てに関するコンテンツは放送コンテンツの2次利用などにより情報の浸透を図り、親子の健康づくりに関するコンテンツにつ

いては、専門的な情報を配信できるコンテンツプロバイダーから情報を入手し、配信することで情報格差の是正を図る。

▶ 伝統芸能や児童・生徒への ICT 教育の一環としてのコンテンツの構築

子ども向けのコンテンツとして、核家族化した家庭では子どもたちに伝承することが難しくなっている伝統芸能や学習に関するコンテンツを市内の関係者や児童・生徒との協働により制作し、配信する。

▶ 構築コンテンツ

住民参加型で作成したもののコンテンツとしては下記の情報分類毎にそれぞれ制作し、次年度以降も継続して情報更新を行う。

育児・子育てに関する様々なコンテンツ	
コンテンツ名	子育てゆいまーる
企画目的	沖縄本島で活動する個人・団体の先進的な子育てに関する取組を石垣市区に紹介し、情報を共有することにより、地域格差の是正につなげる。また、石垣市区内の子育てに関するサークルや団体等の情報を提供し、育児中の保護者の不安を解消する。
取材協力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像工場他</li> <li>・ていんくるやいま</li> <li>・石垣市子どもセンター</li> <li>・こっこーま</li> <li>・あやばにキッズカフェ</li> </ul>

親子の健康づくりに関するコンテンツ	
コンテンツ名	がんにゅうだより
企画目的	子どもたちが島の宝であるお年寄りの元を訪れ、交流を通じ「伝統」、「芸能」、「歴史」を紹介する。また、子どもたちとの踊り、唄い、インタビューを通じ、お年寄りの元気なパワーを紹介するとともに、半径5メートルの生きた歴史や風土を伝承していく。
取材協力等	映像工場・やいま浪漫の会・ウイングキッズリーダーズ

子どもや親たちからの投稿情報	
コンテンツ名	笑顔でニーフアイユー
企画目的	地元の写真館の協力を得て、島の宝である赤ちゃんの写真を両親からのメッセージを添えてスライドショー形式で紹介する。赤ちゃんの笑顔は観る人の心を和ませます。
取材協力等	石垣市/竹富町商工会・地元写真店

伝統芸能や学習に関する情報	
コンテンツ名	やいま音楽堂
企画目的	ビギンや夏川りみ等多くのアーティストを世に排出した八重山諸島。次なるスターの原石を発掘し、紹介。
取材協力等	映像工場

医療・健康情報や行政情報等の公的情報	
コンテンツ名	島じまの島じまん
企画目的	石垣市、竹富町商工会のイベント情報や、地域の活動情報等を中心に、石垣市区民や観光客に八重山の再発見に資する情報を提供し、地元愛を深めます。
取材協力等	映像工場・南山舎・石垣市商工会・竹富町商工会

## 2 平成22年度事業実施において明らかとなった課題

### 2-1 遠隔相談システムに関する課題

#### 【課題1】

導入前に遠隔相談端末の具体的な利用イメージを想起できない施設がいくつかあった。

#### ☆解決策

導入場所（小学校、公民館、出張所）においてデモを実施し、実際の遠隔相談の利用イメージを共有し、施設毎にどのようなサービスが提供可能かについての検討を行った。あわせて必要な機能要件についてのヒアリングを実施した。

この結果、以下のような機能の追加の検討を行い、次年度以降の機能拡張において対応することとなった。

- ・メール配信（メルマガ）のサービス提供（学校の父兄への一斉連絡機能）
- ・1対1の遠隔相談だけでなく1対Nの遠隔相談のサービス提供  
（離島の看護師同士間のコミュニケーション、小学校の先生同士のコミュニケーション等）

#### 【課題2】

ネットワーク通信能力の不足（特に離島においてはADSL回線が多いため、十分な帯域を確保できない可能性があった。）

#### ☆解決策

遠隔相談システム及び端末のカスタマイズを事前検証で行い、低速度でも十分に利用できるよう環境設定を行った。また、一部の設置場所ではADSL回線も用意できない箇所があったため、3G回線を利用することとなり、システム及び端末の3G回線への対応及び調整を行った。

## 2-2 デジタルサイネージシステムに関する課題

### 【課題1】

今までコンテンツ制作等を行った事がない担当者が、システムを簡単に利用出来るようにする必要があった

#### ☆解決策

各担当者は電話、メール、FAXなどを利用して、配信したい内容の文章や写真のみを送信し、複雑なコンテンツ制作は専門スタッフが行う体制を整備して、コンテンツ制作から配信までをストレスなく行える配信システムを構築した。

### 【課題2】

設置場所によってはテレビ放映とサイネージを組み合わせたいとの要望があった

#### ☆解決策

コンテンツサーバ（配信制御器）において、放映番組の切り替えが可能な機能を実装し、要望に応じて時間帯によってはTV放映に切り替えて利用することが出来ることとした。

### 【課題3】

施設側でも簡単なテキスト等を放映したいとの要望があった

#### ☆解決策

通常のコンテンツ配信とは別にテロップ機能を実装することにより、各設置先施設側でもインターネット回線に接続するパソコンから、テキスト情報を部分的にはあるが、随時更新・配信することができる機能を実装した。

### 【課題4】

独自に作成するコンテンツ数には限界があり、汎用的な医療・介護などについてのコンテンツも利用したいとの意向があった

#### ☆解決策

一般医療機関向けに利活用している汎用コンテンツについても編成に組み込んだ。

### 【課題5】

機器等の保守を容易する必要があった。

#### ☆解決策

機器に遠隔操作ソフトを導入することにより、外部から機器のメンテナンスが可能な仕組みとした。

## 3 自律的・継続的運営の見込み

協議会は、平成23年度以降においても継続して設置・開催することとしており、システムの稼

働状況の確認や利活用の推進に努めることとしている。

費用については、デジタルサイネージシステムは企業広告を子育て支援コンテンツの間に配信すること等により広告収入を獲得し、運営費に充当する想定である。

また、遠隔相談システムについては、サーバーはクラウドサービスを利用することによりランニングコストを押さえ、自治体の財源等により運営する。

#### 4 今後の展開方針

平成 23 年度以降においては、協議会を主体として、システム利用の促進及びコンテンツの見直し等を行う。

デジタルサイネージシステムに関しては、利用状況をアンケート等により収集し、定期的にコンテンツを再編する。

遠隔相談システムに関しては、利用シーンを特定のパターンに限定せず、新たな利用方法やニーズの掘り起こしに努める。

#### 5 その他

##### 5-1 遠隔相談実施状況



伊原間公民館



竹富町(波照間出張所)

5-2 デジタルサイネージの設置状況

石垣市及び竹富町内6カ所にデジタルサイネージを設置した。

石垣市役所

石垣市健康福祉センター



石垣市健康福祉センター内スポーツジム

竹富町役場



沖縄県立八重山病院



離島ターミナル

### 5-3 デジタルサイネージコンテンツの作成状況

デジタルサイネージにて配信する子育て支援、伝統芸能の継承などに関するコンテンツを作成した。



子育てコンテンツにとどまらず、一般的な健康啓発、疾病予防に関する番組についても配信を行う。



## <人材育成状況説明書>

### ①申請主体におけるICT人材の育成・活用内容

#### 1 ICT人材の育成人数

自治体職員及び小学校教師：18名

自治会長等：4名

あやばにキッズカフェ利用者：1名

託児所職員：2名

NPO 団体職員：2名

子ども預かり団体職員：2名

子供センター職員：3名

#### 2 ICT人材の育成方法

県内で同様の取り組み経験がある有識者を招へいし、ICTシステムの構築・運用に関する知見の共有を図った。

また、実際の事業運営等に関しても、同様な事業の実施・運営経験のある学識経験者等を招へいし、これらの人材と協働して事業を実施することで適宜、知見の共有を図った。

この他、ICTシステムのオペレーションに関しては利用者向けの講習会説明会を開催した。

デジタルサイネージコンテンツ作成に関しては、当初は番組制作担当者がサポートしつつ番組作成し、番組作成のノウハウを教えることで人材を育成した。

#### 3 1で育成等したICT人材の活用人数

自治体職員及び小学校教師：18名

自治会長等：4名

あやばにキッズカフェ利用者：1名

託児所職員：2名

NPO 団体職員：2名

子ども預かり団体職員：2名

子供センター職員：3名

#### 4 ICT人材の活用方法

遠隔相談システムの利用方法の説明

遠隔相談システムにおける相談受付時間の配分等の調整

デジタルサイネージ用の行政コンテンツの作成

デジタルサイネージ用の地域・子育てコンテンツの作成

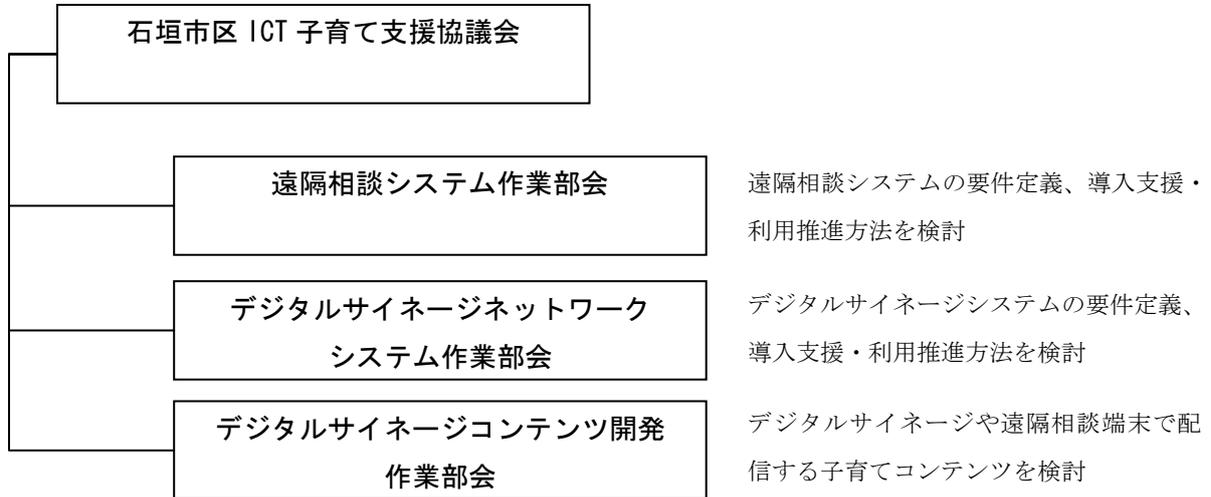
#### 5 次年度以降のICT人材の育成・活用内容（予定）

必要に応じて既存のICT人材が、新たな人材に対して育成を行うことを想定している。

育成した ICT 人材の活用方法としては、本年度と同様に各 ICT システムのオペレーション、もしくはオペレーションのサポート、サイネージコンテンツの作成、及び作成支援を行う。

## <実施体制説明書>

### 1 実施体制



### 2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	石垣市区 ICT 子育て支援協議会	事業の計画（進め方、スケジュール、体制）の策定と進捗状況の把握、重要な課題の解決策の検討を行う。
2	石垣市	協議会事務局、企画調整を行う。
3	竹富町	協議会事務局、連絡調整を行う。
4	地域育児・保育施設	相談員としての事業協力を行う。
5	医療機関	相談員としての事業協力を行う。
6	子育てセンター	相談員としての事業協力を行う。
7	青少年センター	相談員としての事業協力を行う。
8	関連NPO等	相談員としての事業協力、相談員の調整、システム利用の促進を行う。
9	有識者・学識経験者等	地域情報化に関する助言を行う。
10	地域文化団体	映像コンテンツの制作を行う。
11	地域映像制作事業者	映像コンテンツの制作、配信を行う。

### 事業実施進行表

実施内容	8月	9月	10月	11月	12月	H23		
						1月	2月	3月
協議会等設立・準備会合		△	△			△		△
協議会開催				△				△
システム構成の検討・決定			→					
システム構築に係る競争入札						→		
システム設計							→	
システム稼働								→
報告書作成								→

### その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト  
特になし